



栽培面積(ha)	3	3	3	3	3
雇用状況(人)	14	14	14	14	14

#### (4)販路先

地元市場との契約取引が全体の9割で、県内の量販店においてこだわり安心農産品として販売されている。年間をとおした値決め販売のため、安定した取引を実現している。そのほか、町内の小売店への直接販売や、個別の対面販売等を行っている。

#### (5)環境保全型農業直接支援対策の参加状況

現在のところ参加していない。

#### (6)各種認証の取得状況等(エコファーマー、特別栽培農産物認証、有機JAS認証、GAP等)

ア)平成21年にエコファーマーの認定、25年度継続して取得。

イ)平成22年に特別栽培農産物の認証を取得。

## 2. 取組内容

### (1)実践している栽培技術

#### ア)土づくりの実践・工夫

土壌分析に基づいた肥料設計を行い、適正量を施用することで環境負荷低減に努めている。また、地元の稲作農家のもみ殻を利用し、畜産農家で作成した牛ふん堆肥を施用して土づくりに努めるとともに、堆肥マルチによる防草対策に利用している。



堆肥マルチの設置状況

#### イ)化学肥料の削減

堆肥の施用および有機質肥料(オール有機)を利用して化学肥料の低減を図ることで、認証基準に基づく特別栽培農産物の生産に取り組んでいる。

#### ウ)化学合成農薬の節減

耕種の防除の実施等により農薬の使用回数を減らすなど、認証基準に基づく特別栽培農産物の生産に取り組んでいる。具体的には、条間をやや広めにとり、風通しをよくすることで病害の発生を抑えることや、病害茎葉をほ場外に搬出して処分することで病害の蔓延を防ぐこと、ほ場整備にあたり弾丸暗渠や額縁明渠を施工し排水対策を徹底することなどの対策を実施している。

また、除草剤の使用は春先の1回にとどめ、それ以降はうね上の除草は手作業で行うなど、農薬使用の軽減に努めている。

#### エ)再生可能エネルギーの活用

干ばつ等の気象変動に対応するため、平成25年度から2カ年計画で太陽光パネルを利用した日射制御型拍動自動灌水装置を導入し、温室効果ガスである二酸化炭素を排出せず安定した水管理と収量の確保を目指すなど、環境に配慮した生産技術の導入にも積極的に取り組んでいる。



手取り除草作業

### (2)地域や関係者との連携や集団・組織的な活動内容

堆肥については、地域の畜産農家が地元の稲作農家のもみ殻を利用して作成した牛ふん堆肥の供給を受けている。その代償として、畜産農家にはアスパラガスの選別時に排出される切りくず

(日量20～30kg)を提供し、繁殖牛の粗飼料として利用していただき、耕畜連携を実施している。アスパラガスを飼料に利用することで繊維質が補給されるためか、牛の生育に好影響を与えているようである。

### (3)消費者・実需者との関わり

アスパラガスは、市場出荷のほか、学校給食への提供、町内の小売店や直売の対応等、地元消費者への提供にも努め、安全、安心な農産物としてPRしている。

地元市場経由で県内の量販店で販売されるものについては、こだわり安心農産物として表示をして販売されており、安全安心に関心の高い消費者等を中心に、慣行栽培のものよりやや高値であってもよく売れている。

また、学校給食については、町内2箇所の小学校に年に3～4回程度提供し、地元産の安全安心な農産物であることをアピールし、好評を得ている。

### (4)人材育成活動

雇用した人のほか、町内のアスパラガス生産農家に対し栽培技術の指導を行っている。具体的には、JAの生産組織であるアスパラガス部会にジェイファームとして所属しており、ほ場巡回や栽培講習会等の機会を通じて栽培技術を指導している。

## 3. 成果

### (1)環境に配慮した技術の成果

基肥の一部と追肥に有機質肥料を活用することで、化学肥料を5割以上低減することができた。安全安心な取り組みの栽培により販売先の評価も高く、更なる出荷量増の要請を受けている。

### (2)経営上の効果

特別栽培農産物の値決め販売による安定した販売環境と所得の向上につながっている。

### (3)地域に与えた影響

収穫作業や管理作業等は、地元で雇用した方をお願いしており、町の雇用創出につながっている。

環境保全型農業の取組については、現在、実践箇所は町内で当ほ場のみとなっているが、耕畜連携や契約取引の取組をベースに、付加価値の高いアスパラガスの生産および所得確保をモデル的に実践していくことにより、今後は地域内への波及が期待される。

### (4)人材育成活動の結果

栽培技術の指導により、受講した町内アスパラガス生産農家は栽培技術を習得し、そのことで単収が向上し、収入増につながっている。

## 4. その他特記事項

早朝に収穫し、選別作業を分担するなどして迅速に市場に届ける「朝どりアスパラガス」の取組により、新鮮な状態で販売が可能になっており、その点でも付加価値を高めていきたい。

## 5. 今後の活動方向

今後も、積極的に地元畜産農家の堆肥を活用して土づくりに努めるとともに、堆肥マルチによる防草対策の実施等により、安心安全なアスパラガス生産を進めて行く。

また、朝どりは市場へ、夕どりは地元小売店へと2回どりを検討し新鮮度をアピールしていきたい。

当社は、町の基幹産業である農業を守るために設立されたものであり、現在、町の園芸作物栽培を担う代表的な担い手であることから、安全安心なアスパラガス栽培の更なる生産拡大に取り組むことにより、地域全体の農業の活性化につなげていきたい。

これまでの当社の環境保全型農業の取組をモデルとし、町内における耕畜連携の仕組みを核として、環境保全型農業の面的広がりを拡大していく。